

Labo NEWS

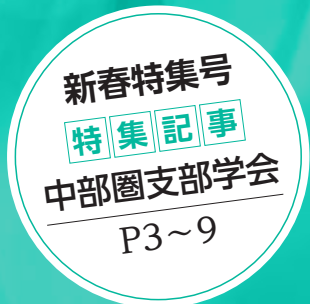
Aichi Association of Medical Technologists Report



らぼニュース

CONTENTS

- 巻頭言 年頭挨拶(愛知県知事) 1
- 年頭挨拶 (保健医療局長、愛臨技会長) ... 2
- 特集記事 どうするタスク... 3~9
- 地区だより(西三河) 10
- ニュージーダー育成研修会 ... 11
- 研究会..... 12~13
- メールアドレス登録のお願い... 13
- 愛臨技HP求人情報掲載について 13
- 会員執筆物の紹介原稿募集... 13
- 第4回 HORIBA 東海地区血液セミナー 14



2024年12月1日現在 正会員数 3,917名

新春を迎えて

愛知県知事
大村 秀章



あけましておめでとうございます。

昨年は、3月に「ジブリパーク」がフルオープンし、10月には国内最大のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」が誕生しました。

世界が注目するこの2つの施設を起点に、世界中から、たくさんの人や最先端の技術・サービスを呼び込み、愛知をさらに元気にしてまいります。

そして、今年7月には、いよいよ、アジア最大級・世界最先端のスマートアリーナ「IGアリーナ」がオープンします。スポーツ・エンターテインメントの拠点として、「ジブリパーク」や「STATION Ai」との相乗効果を生み出し、世界と大交流する愛知を創り上げてまいります。

また、愛知万博20周年の今年、3月25日に「愛・地球博20祭」が開幕します。「ジブリパーク」とも連携しながら大いに盛り上げてまいります。

今後も、2026年の「愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会」、2028年の「技能五輪国際大会」など、愛知・日本を元気にするプロジェクトが続きます。

これらのプロジェクトを着実に進め、ここ愛知から、日本の成長を牽引してまいります。

また、喫緊の課題である人口減少・少子化対策を始め、社会インフラ整備、農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、感染症対策、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民の皆様の生活と社会福祉の向上、次代の愛知を担う「人づくり」にも全力を注いでまいります。

引き続き、すべての人が輝き、未来へ輝く「進化する愛知」の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2025年 元旦





新年を迎えて

愛知県保健医療局長

長谷川 勢子

あけましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

愛知県臨床検査技師会の皆様方には、日頃から本県の保健医療行政の推進につきまして、格別の御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

貴会は、昭和62年4月に社団法人として活動を始められ、これまで30年以上の長きにわたり、臨床検査に携わる県内唯一の技術者集団として、知識や技術の研鑽に努め、県民の皆様の健康の保持及び増進に御尽力いただくとともに、この地域の医療を支えていただいておりますことに心から敬意を表します。

さて、世界的に猛威を振った新型コロナウイルス感染症の対応において、その診断に用いられる遺伝子

検査や抗原検査は、病気を正確に診断し、治療の方針を決定するための必要不可欠なものであり、医療における臨床検査の重要性がこれまで以上に理解されるようになりました。

また、近年では遺伝子診断や個別化医療など、医学が進歩する中で、臨床検査を取り巻く状況も大きく変化しています。それに伴い、臨床検査は高い信頼性と専門性が一層求められており、臨床検査の専門家として、臨床検査技師の果たす役割は益々高まっています。

会員の皆様方におかれましては、このような現状を踏まえ、新しい検査技術の習得をはじめとして能力の研鑽に努められ、良質で適切な医療を支える一員として益々御活躍されることを御期待申し上げます。

本県としましても、県民の皆様が健康を維持・増進できますように全力で取り組んでまいりますので、引き続き、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、本年も皆様方の御健康と貴会の御発展を心からお祈りいたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

令和7年 元旦



年頭のご挨拶

公益社団法人
愛知県臨床検査技師会

会長 藤田 孝

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は愛知県臨床検査技師会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて令和6年は、元日に能登半島での大地震をはじめ、猛暑の連続、各地で頻発する豪雨災害と自然災害に心痛める機会が多い1年でした。震災、豪雨災害に見舞われました方に心よりお見舞い申し上げます。当会におきましても震災後は日臨技中部圏支部各県技師会と協調し、DVT 検診などを通じて震災支援を行いました。能登半島に出向き検診業務を手掛けていただいた会員諸氏、快く送り出していただいた会員施設の皆様心より御礼申し上げます。

また、11月には7年振りの愛知県開催となる日臨技

中部圏支部医学検査学会を名古屋国際会議場で開催し、1,300名以上の方にご参加いただき盛会裏に終了することができました。愛知県のみならず、中部圏支部の会員のみなさまが愛知県に集合され、日ごろの研究報告、意見交換などを活発に行っていたことは有意義であったと思います。

全国「検査と健康展」もアイモール三好で例年通り開催し、多くの県民にご参加いただきました。研究班活動や精度管理調査、フレッシュセミナーや新人サポート研修会も予定通り開催でき、当会が掲げる公益事業を順調に遂行できております。加えて、「タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」では全国で最も講習会を開催しております。これもひとえに会員の皆様による会務へのご理解とご協力の賜物と感謝いたしております。

新しい年を迎え、会員の皆様には健やかに晴れやかに1年をお過ごしいただくことを祈念するとともに、国内有数の大規模な県技師会として、その名に恥じぬ活動を継続して参りたいと考えております。当会の更なる発展のため、今までと変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年 元旦

特集記事 第62回 中部圏支部学会

どうするタスク

愛知に集い技師の働き方を考える

愛知に集い技師の働き方を考えるをテーマに開催された第62回日臨技中部圏支部医学検査学会は盛況のうちに幕を閉じました。参加された方たち、実行委員として活動された方たちの体験談、感想を特集記事にしました。

教育講演

「天気痛の基礎と臨床」を拝聴して

学会長 藤田 孝

中部大学生命健康科学部理学療法学科教授の佐藤純先生に「天気痛の基礎と臨床」についてご講演いただきました。スマホアプリ「ウェザーニュース」に天気痛予報を開設された先生です。実は私は昨年、中部大学で佐藤先生のご講演を聴講させていただく機会がありました。非常に興味深く拝聴するとともに、私の知り合いの臨床検査技師でも天気痛ではないかと思われる方が多くいることから、是非とも皆さんにご講演を聞いていただきたいと思い、実行委員会に教育講演として推薦させていただきました。

佐藤先生のご講演はとても分かりやすく、「渡り鳥は嵐が来る前には飛び立たず、それは内耳で気圧や天候の変化を認知しているから」など動物や昆虫の生態と気圧認知のお話から入られ、人間も内耳で気圧を感知していると思われること、それにより天気痛が起きてしまう人がいること、「雨が降る前に古傷が痛む」なども天気痛の一種として内耳が関与していることなどについて研究データを提示しながらご講演いただきました。多くの研究データをもとに、現在では内耳の過敏性を和らげ、天気痛を抑える治療なども行っておられるとのことでした。

佐藤先生は現在も愛知医科大学病院において「気象痛・天気痛外来」で診察・治療を行っておられます。「天気痛かも」と考えておられる方は是非ともいちど「ウェザーニュース」アプリにある「天気痛チェックシート」でセルフチェックを、酷い天気痛に悩んでおられる方は受診についてご相談されてみては如何でしょうか。



学術奨励賞を受賞された 尾崎文音さん

(藤田医科大学病院 臨床検査部)

この度は、令和5年度日臨技中部圏支部医学検査学会学術奨励賞に選出していただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方をはじめ、学会関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

今回の発表では、少量検体における遠心前後での尿潜血反応への影響について検討しました。少量検体では、尿沈渣成分をより多く集めるために、遠心分離した上清で尿定性検査を行っていましたが、今回の検討を通して、少量検体でも尿定性検査を実施後、遠心分離を行い鏡検する方法へと変更しました。規定量提出されたときと同様の手順となり、業務の煩雑さの解消や効率化につながりました。

この受賞はご指導、ご支援を賜りました藤田医科大学病院臨床検査部の方々、共同演者の方々のおかげです。この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。今回の受賞を励みに、今後も臨床検査の発展に少しでも貢献できるよう精進してまいります。



学会に参加して…

三谷 有生さん

(公益社団法人 日本海員掖済会 名古屋掖済会病院)

三谷有11月2日(土)・3日(日)に名古屋国際会議場にて令和6年度日臨技中部圏支部医学検査学会が開催され参加させていただきました。特別企画・特別講演・教育講演・一般演題・部門別企画など幅広い演題を聴講させていただきました。学会期間中では諸先輩方、同級生、後輩との交流も深めることができ、実りのある学会となりました。また、機器展示では各企業展示ブースを回ることにより新しい知識の習得に加え、各ブースで獲得できるスタンプを集めスタンプラリーを実施し、最後の抽選で見事1等のバームクーヘンを当選することが出来ました。学会に参加することで横の繋がりの大切さを実感でき、改めて学会の重要性を感じる事が出来ました。

学会に参加された方からは…

学生さんもたくさん来てくれました!

学会に参加して…

南川 絢政さん

(藤田医科大学 医療科学部 医療検査学科3年)

学会に参加することで、新しい知識や考え方を得ることができ、さらに自分の学んできた知識の確認もすることができました。特に、「救急初期診療で活かされる臨床検査の技術」の講演では、実施の現場に必要な技術、知識を得ることができ、病院で働くときに役に立つと感じました。また、エコーライブでは、タフペイシエントに挑戦し、より正確な画像を得るにはどうすればよいかなどを知るこ

とができました。ただ、席がなく聞けなかったものもあったため少し残念に感じました。

学会全体を通して、臨床検査技師としての役割、現場に出た際に意識するポイントを理解することができたため、非常に有意義な時間になったと感じました。また機会があれば参加したいと思える学会でした。

**実務委員として
学会に参加して…**

太田 裕子 さん
(愛知県がんセンター)

たくさんの方たちが
手伝ってくれました!

11月2日、3日に開催された第62回日臨技中部圏支部医学検査学会に参加しました。1日目に実務委員として学会に参加し、大変貴重な経験をさせていただきました。私自身はクローク業務で当日だけのお手伝いでしたが、学会運営は準備段階から当日運営まで、本当に多くの方々の努力と尽力によって成り立っていることを改めて感じました。2日目は一参加者として、素晴らしい発表を拝聴しました。発表者の熱意や専門性の高さに感銘を受け、活発な意見交換にも刺激を受けました。

会場で数年ぶりに再会した方や、初めてお会いする実務委員の方と近況報告や情報交換をすることができ、大変貴重な時間を過ごすことができました。学会は単なる発表や議論の場だけでなく、多くの方と交流を深める貴重な場でもあることを再認識しました。

今回、学術と実務の両面から新たな刺激や多くの学びと交流の機会を得ることができ、大変有意義な経験となりました。この経験生かし、さらなる成長を目指していききたいと思います。

**「LIVEで学ぶエキスパートの
走査テクニック」を企画して…**

刑部 恵介 さん
(副大会長)

さまざまな企画が
ありました!

日頃から超音波検査に関しては多くの学会、研究会があり、様々な企画が開催されています。しかし、その多くは講演中心で実技を見せるライブデモンストレーションというのは少ないのが現状です。そこで本学

会では副大会長のゴリ押しで“エコーライブ”を企画しました。講師は中部圏で各領域のトップソノグラファーである先生方に依頼させていただき、司会は次世代の先生にお願いし、普通の体型だけではなく検査の実施が難しいタフペーシェントも含めて実施しました。当日には各セッションでは本当に多くの方に聴講していただき、トップソノグラファーのテクニックを思う存分見て頂けたと思います。

この企画ができたのは、講師および司会の先生方、モデルを引き受けて下さった愛知県会員の皆さん、そしてキャノンメディカルシステムズ株式会社、GEヘルスケア・ジャパン株式会社、富士フイルムメディカル株式会社のご協力があったの開催でした。この稿をお借りして感謝申し上げます。



教育講演 I 「救急初期診療で 活かされる臨床検査 の技術」を視聴して

司会：内田 一豊 (実行委員長)

病院の業務で話題となっているタスクシフト・シェアの一環として、検査技師が救急医療に携わる機会が、今後体験する事が想定されます。今回、救急医療の現場で働く医師である、藤田医科大学救急医学・総合内科学講座 主任教授の岩田充永先生に、テーマ「救急初期診療で活かされる臨床検査の技術」の内容でご講演をしていただきました。岩田先生は、愛知県下の多くの病院でいろんな科を経験され、なおかつ、救命救急センターで救急医として勤務され、それを活かし救急での臨床検査の重要性についてお話されました。内容としては、「さるも聴診

器]のごろ合わせを使い説明していただきました。最初の「さ」は、酸素について解説され検査値である Spo2値と乳酸値の重要性を説明されました。この検査値については、我々も検査報告するうえで注意しなければならないと実感しました。「る」については、ルートを意味しカテーテルの選び方に説明がありました。最後に「も」はモニター心電図についてお話されました。モニター心電図は検査技師も観察でき、早く異常を見つけ出すこともあるので、検査技師として発揮できる検査内容と思いました。このように、救急の場において検査技師の業務が活かされる技術が多くあると思われました。現場の医師が何を求めているかを追求し、今後の検査業務の改革を新たに考えさせられる講演でありました。

学生フォーラムを 開催して…

村上 ゆうな さん

(藤田医科大学 医療科学部医療検査学
科4年・臨床検査技師学生団体 SOLS)

本学会特別企画「学生フォーラム」において、臨床検査技師学生団体 SOLS は企画・運営を実施しました。本企画は、昨年の第61回中部圏支部医学検査学会学生フォーラムに引き続き、コミュニケーションツール「えんたくん」を使用して、学生・教員・現任の臨床検査技師が立場や垣根を越え、テーマに沿った対話の場を形成しました。2日間実施し、1日目は3つのテーマに沿ってグループごとに対話を展開しました。2日目は、1日目に使用した「えんたくん」への記載内容をもとに、企画メンバーで振り返りから考察までを実施しました。1日目のグループディスカッションは45名(5×9グループ)で実施し、各人が臨床検査技師の将来を見据えた新たな発見をすることで、2日目の振り返りと考察へ繋げることが出来ました。今後も立場や地域を越えた意見交換の場を作り、自身の職業理解を深めるとともに、臨床検査技師の認知度向上、学会への学生の参加促進に寄与できるよう尽力してまいります。最後に、本学会学生フォーラムにおいてご協力賜りました先生方にこの場をお借りし

感謝申し上げます。

実行委員として
活動された方たち
の記事です!

◆学会の企画立案に携わって…

齊藤 翠(学術担当)

本学会は、一般演題として157名の方にエントリーいただきました。また、特別企画として12の企画を立案し、非常に多くの方々のご協力のもと開催することができました。

一般演題は、7年前に愛知県で開催したときを上回るほど応募をいただき、かつ、愛知県からは95題と、本当に愛臨技会員のみなさまに支えられた学会だと感じております。

特別企画については、企画を立案しプログラムを作成していくうえで、どのようなテーマであれば参加者のみなさまに興味をもって楽しく参加していただけるかと試行錯誤しました。私

たち実行委員がみなさまに聴講いただきたいと思い企画した、震災や標準化をテーマとした企画、エコライブ、RCPCはいかがでしたでしょうか。いずれも非常に多くの方々に聴講いただき、私自身も大変興味をもって聴講することができました。本学会に携わることができ、本当によかったと思っております。

この場を借りて、学会に参加していただいた全ての方に感謝申し上げます。



◆会場担当として…

手嶋 充善(会場担当)

会場担当として心がけていたことは、運営の面においては、一部のスタッフだけではなく愛知県すべての地区の会員に運営に関わっていただきたいと考えていました。実行委員会、理事会を通して各地区から5~6名の会員の皆様に実務委員に加わっていただきました。また、参加される皆様がわかりやすいように立て看板や会場内の配置にも気を配りました。座長や司会者がわかりやすいように各会場でのアナウンスも実施させていただきました。第一会場以外はアナウンス業務を当日決めたにも関わらず、各会場ともに会場責任者中心にととてもよくまわって運営されていたことにとても驚かせられました。愛知県のチームワークの良さが存分に発揮されていたのではないかと思います。

学会に参加された会員の皆様、運営をお手伝いいただいた実務委員、実行委員の皆様にご挨拶申し上げます。ありがとうございました。

◆展示会場の運営を通して…

岡本 明紘(展示担当)

会員の皆様が学会に行く際の楽しみの一つとして、展示会場巡りがあるかと思います。多くの企業が一堂に会し、様々な機器・試薬に触れる場となります。今回の学会でも30を超える企業に協賛をいただきました。会員の皆様には多くの企業ブースを訪れるきっかけとなるよう、また協賛いただいた企業の方々には自社の製品をアピールする場となるよう、展示会場においてスタンプラリーを企画させていただきました。特に初日の参加者が多く、用意していた景品がなくなり、くじ引きができなかった方が出てしまったことは悔やまれますが、二日間通して多くの方に参加いただき、大変盛況な展示会場となったことをうれしく思います。参加賞ではありましたが、〇〇良品のバームクーヘンが非常に人気もあり、くじ引きでは外れたものの、多くの方に喜んでいただけたことが印象的でした。

展示会場に来ていただいた会員の皆様、協賛いただいた企業の皆様、運営をお手伝いいただいた実務委員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



◆学会広報におけるインスタグラムの活用とその成果…

岩田 英紘(広報担当)



近年、学会における広報活動には SNS が重要な役割を果たしています。本学会においても、公式インスタグラムを活用した広報活動を行い、開催の約半年前から全65回の投稿を実施しました。主な投稿内容は、「会場や講師の紹介」、「プログラムの見どころ」などの学会に関する情報に加え、「実行委員が推薦する愛知県の観光地、グルメ、お土産情報」など、地域の魅力も発信しました。これにより、フォロワーや閲覧者に本学会への期待感を醸成することができました。

さらに、学会当日にはインスタグラムのストーリーズ機能を活用し、学会の雰囲気やランチョンセミナーの残席数など、リアルタイムで情報を提供しました。この取り組みにより、学会参加者にも迅速かつ積極的に情報を届けることができたと考えています。

分析データによると、1000回以上の閲覧数を記録した投稿もあり、インスタグラムを通じて学会の情報が広く伝わったことを実感しています。

◆学会会計を担当して…

藤田 京子(会計担当)

会員の皆様の期待に応え、喜んでいただける学会を開催するためには、企画が重要であり、運営にはお金が必要です。企業様より頂戴した協賛金、日臨技からの前渡金、会員の皆様からの参加費、これらにより学会運営が成り立っていますが、皆様の大切なお金をお預かりする会計担当としては、1円たりとも無駄にはできません。必要な経費でも少しでも安価にならないかと実行委員で工夫をこらし、計算機をたたき帳簿をつけ取り組んで参りました。残金と帳簿がぴったり一致するときの爽快感は格別ですね。当初は「インボイスって何?」というところからのスタートでしたが、日臨技の指導のもと、実行委員メンバーと力を合わせ最後まで全うすることができました。貴重な経験をさせていただき感謝しています。ありがとうございました。

◆あいちの魅力(味力)いっぱい情報交換会…

杉浦 康行(情報交換会担当)

情報交換会を楽しんでもらうために、愛知の美味しい魅力を堪能してもらい、「愛知ってなんもないよね」と言われないように景品も愛知県全体で選んでみました。名古屋めしといえば、きしめん、天むす、みそかつということで、お食事に盛り込んでみました。本物が食べたいな、と思った方は情報交換会終了後に、名古屋の街に繰り出して食べ歩いていただけたのではないのでしょうか。くじ引き大会では、あいちの魅力(味力)いっぱいの景品を選ばせていただきました。名古屋は「質」もさることながら、やっぱり「量」が重要ですね。ココイチのカレーも愛知ですし、一色産のうなぎも有名です。テーマパークはレゴランドに行ける旅行券、優雅なマダム向けのホテルアフタヌーンチケットも好評でした。学会は発表も重要ですが、現地に来て美味しいものを食べてもらう、素敵なお土産を持ち帰ってもらえるのも魅力です。実行委員が笑顔になりながら開催できたことは非常に良かったと思います。



今年は三重県！
第63回
中部支部医学検査学会！
応援します



医療法人深谷会富士病院は、昭和41年に創業者深谷藤一先生によって、知立市牛田町にわずか20床の小さな病院として開院しました。以来、藤一先生の信念は長男皓孝先生(現会長)そして現院長である雷太先生へ受け継がれ、富士病院は現在も知立市民の方に親しみと安心感のある医療を提供しています。当初は20床で開設された当院も、皓孝先生が後継した後の時代には地域の高齢化に伴い130床となりました。アクセスが良く、名鉄牛田駅から徒歩3分、ミニバス(知立市コミュニティバス)を利用すれば病院前にバス停があります。

父・皓孝会長と同じく脳神経外科医の道を選ばれた雷太先生は、平成30年院長就任後新しいシステムや精密機器を積極的に導入すると共に、多くの脳神経外科手術経験と技術を生かし、手術・急性期治療およびリハビリテーションに力を入れてこられ、令和元年には富士病院は一次脳卒中センターに認定されています。

脳神経を専門とする医師が、24時間365日在院しており、手術室・バイプレーン型脳血管撮影装置・MRI・CTなどが完備され、脳卒中に対応できる体制を整えています。また、急性期治療を行うとともに回復期リハビリテーション病棟を備えたりリハビリテーション機能を重視した病院であり、同じ病院内で急性期治療からリハビリテーションまで切れ目のない医療・リハビリが可能なケアミックス型病院となっています。

検査室としましては普段の業務(採血、生化学検査、生理機能検査、健診など)をこなすとともに、コロナ禍の波を乗り越え(中国武漢市のことがニュースになったのが、私が入職した年の冬だったので鮮明に覚えています)、最近では脳外科手術にてMEP(運動誘発電位)機器の管理を担っています。

ところで、私が日々の疲れを癒す手段の一つに【甘いものを食べる】があります。そこで今回このらばニュースを通じて紹介したいのが知立名物「あんまき」です。あんまきとは薄く焼いた小麦粉生地で餡を巻いた和菓子で、中の餡の種類が多彩です。私はチーズが入ったものが好きでして、甘じょっぱくて癖になります。ぜひ知立にいらした際には食べてみてください、そして自分の“推し”餡を探してみてくださいね。



令和6年度 愛臨技 ニューリーダー育成研修会

『県技師会活動の活性化のために』

～ MTS(Management by Target Setting) スキル～

保健・医療・介護分野における臨床検査技師の果たす役割はますます重要になってきています。組織において臨床検査技師がリーダーとなって活躍するためにも、組織の目標達成に向けた段階に応じたプロセスを自ら設定できるようになることが望ましく、今回の研修会では、MTS(Management by Target Setting)のスキルを身に付けていただき、今後、施設や技師会活動において次世代を担っていくためのスキル向上を目的として開催いたします。

記

- 【申込期間】 令和7年1月4日(土)～2月15日(土)
※日臨技 HP 会員専用サイトからの事前申込となります(愛臨技会員限定：50名)
- 【開催日時】 令和7年2月22日(土) 14:00～17:30
- 【開催場所】 藤田医科大学 3号館218教室
- 【参加費】 無料
- 【生涯教育】 基礎 20点

【内 容】

1. MTS(Management by Target Setting)の概要とステップ表の作成方法について
豊橋市民病院 手嶋 充善
2. グループワーク
目標課題
 - ①研究班研究会の参加人数を増やすために
 - ②研究班の班員応募者数を増やすために
 - ③県技師会活動の活性化のために
3. ステップ表の作成
4. ステップ表の発表
【ファシリテーター】
豊橋市民病院 手嶋 充善
JA 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行
愛知医科大学病院 榎本めぐみ

【問合せ先】 愛知県臨床検査技師会 組織部 和出 弘章(トヨタ記念病院)
E-mail: aamt.soshiki@gmail.com

研究会

生物化学分析検査研究班

基礎教科：20点(レポート提出者に限る)

閲覧期間：令和7年2月1日(土)～14日(金)

参加方法：日臨技 HP から事前登録※

令和7年1月1日(水)～24日(金)

※視聴方法は後日メールにて配信

定員：なし

参加費用：なし

レポート：令和7年2月28日(金) 締切

配信方法：オンデマンド配信

テーマ：令和6年度愛臨技精度管理調査報告

講師：

1. 臨床化学検査部門

藤田医科大学病院 岡崎医療センター 田中 亜希
グッドライフデザイン 小栗 美里

2. 免疫血清検査部門

名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 伊藤 綾香

3. HbA1c 検査～その臨床的意義と注意点～

東ソー株式会社 名古屋支店 バイオサイエンスG 尾花 昭平

内容：令和6年度愛臨技精度管理調査報告を行います。今年度の傾向や分析結果について詳細にお話しします。尚、当配信の視聴を希望される賛助会員、学生の皆様は(aamt-chem@aichi-amt.or.jp)に直接お申し込みください。後日、視聴方法について連絡いたします。

血液検査研究班

基礎教科：20点

日時：令和7年2月1日(土) 15:00～17:00

参加方法：日臨技 HP から事前登録

令和7年1月4日(土)～2月1日(土)

定員：50名

参加費用：なし

場所：リップルスクエア(アーバンネット名古屋ビル 20F)

テーマ：「令和6年度愛臨技精度管理調査報告」、
「診療報酬を知らう」

講師：

1. 「令和6年度愛臨技精度管理調査報告」

国立病院機構名古屋医療センター 後藤 勇也
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 入谷 康太

2. 「診療報酬の基礎知識と令和6年度診療報酬改定について」

藤田医科大学病院 医療事務室 入院医事課 課長 鈴木 健太

司会：藤田医科大学病院 佐藤 聖子

内容：令和6年度の精度管理調査の結果報告と解説を行います。後半には診療報酬の基礎的なお話と、令和6年度の改定について検査分野に焦点を当て解説いただきます。事前参加登録なしでの当日参加も認めま

すが、事前参加登録を推奨しております。定員に達した場合は事前参加登録者優先のため、参加をお断りする場合がありますのでご了承ください。

病理細胞検査研究班

基礎教科：20点

日時：令和7年2月15日(土) 15:00～17:00

参加方法：日臨技 HP から事前登録

令和7年1月3日(金)～2月15日(土)

定員：60名

参加費用：なし

開催方法：現地開催

場所：リップルスクエア(アーバンネット名古屋ビル 20F)

テーマ：精度管理報告/臨地実習・新人教育

講師：

1. 「精度管理報告(病理検査部門)」

医療法人豊田会刈谷豊田総合病院 林 直樹

2. 「精度管理報告(細胞検査部門)」

JA 愛知厚生連 海南病院 水谷三希子

3. 「名大病院・病理部門における臨地実習について」

名古屋大学医学部附属病院 船戸 連嗣

4. 「新人教育について。アンケート調査報告」

修文大学医療科学部 橋本 克訓

司会：総合大雄会病院 鈴木健太郎

内容：令和6年度の愛臨技精度管理調査の結果報告と解説を病理検査部門と細胞検査部門の担当者が解説します。各部門のフォトサーベイの設定の解説や、出題の意図などを説明します。後半は臨地実習と新人教育に関する内容の講演を企画しました。今年度から新しいカリキュラムでの臨地実習が開始されました。大学病院における病理検査分野の臨地実習の実践を紹介していただきます。新人教育に関しては班内アンケートを実施し、その結果を報告する予定です。病理検査分野における人材育成のあり方についての議論の場となればと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。

一般検査研究班(オンデマンド配信)

基礎教科：20点(レポートを提出した者に限る)

閲覧期間：令和7年2月8日(土)～21日(金)

参加方法：日臨技 HP から事前登録

令和7年1月6日(月)～2月1日(土)

※視聴方法は後日メールにて配信

定員：なし

参加費用：なし

レポート締切：令和7年2月21日(金) 締切

開催方法：オンデマンド配信

テーマ：愛臨技精度管理事業

令和6年度一般検査研究班精度管理報告会

講師：

1. 「令和6年度一般検査研究班精度管理報告会」

成田記念病院 望月 里恵

修文大学 医療科学部 蜂須賀大輔

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 野村 勇介

2. 「AUTION EYE AI-4510における

尿沈渣検査への取り組み」

アークレイマーケティング株式会社 学術推進チーム 澄川 瑞季

司 会：成田記念病院 望月 里恵

内 容：令和6年度の愛臨技一般検査研究班の精度管理調査の結果報告と解説をいたします。また、「AUTION EYE AI-4510における尿沈渣検査への取り組み」として、アークレイマーケティング株式会社より、最新の尿沈渣標本の画面検査と支援システムについてご講演をいただきます。皆様のご参加お待ちしております。

賛助会員、学生の皆様で参加を希望される方は、下記のアドレスに直接お申し込みください。後日、視聴方法について連絡いたします。

ippannaichi@yahoo.co.jp

遺伝子・染色体検査研究班 (オンデマンド配信)

基礎教科：20点(レポートを提出した者に限る)

閲覧期間：令和7年2月8日(土)～17日(月)

参加方法：日臨技 HP から事前登録

令和7年1月7日(火)～2月1日(土)

※視聴方法は後日メールにて配信

定 員：なし

参加費用：なし

レポート締切：令和7年2月22日(土)

開催方法：オンデマンド配信

テ ー マ：令和6年度愛臨技精度管理報告

講 師：

1. 「令和6年度 愛臨技精度管理調査報告」

JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 榊原 達朗

2. 「ジェネティックエキスパートについて」

JCHO 中京病院 山本 浩二

3. 「『対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル』から考える今後の子宮頸がん検診市場」

ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 井上麻畝

司 会：大阪大学医学部附属病院 鈴木翔太

内 容：令和6年度愛臨技精度管理調査報告や認定資格の紹介、昨今話題の HPV 検査単独法による子宮頸がん検診について講演していただきます。賛助会員、学生の皆さまは(aamt-gene@aichi-amt.or.jp)へ直接参加希望の旨をご連絡ください。後日、視聴方法についてご連絡いたします。多くの方の視聴をお待ちしております。

メールアドレス登録と受信設定のお願い

毎月会報『らばニュース』Web 版発行のお知らせを日臨技会員システムに登録されたアドレス宛にメール配信しています。その他、重要な情報提供、お知らせなどもメール配信させていただきます。会員の皆様には登録メールアドレスの確認と、変更がありましたら日臨技会員専用ページにて変更手続きをお願いします。また、迷惑メール防止の受信設定をされている方は、下記のメールアドレスからの受信ができるよう、設定をお願いします。ご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。

jamt_pref23@sys.jamt.or.jp

愛臨技HP 求人情報掲載

愛臨技HPに臨床検査技師求人情報の掲載を始めました。

掲載を希望される会員は、愛臨技HP 会員サイト内「各種手続き」、「求人掲載依頼」画面にて必要事項を入力、求人票登録をお願いいたします。

なお、求人掲載は施設会員のみとしますが、求人情報は会員以外でも閲覧可能です。

詳細は愛臨技HPにてご確認ください。

会員執筆物の紹介原稿募集します！

会員の業績紹介の一つの方法として、らばニュースにて論文、書籍執筆(分担執筆を含む)などの紹介掲載を受け付けます。自薦・他薦は問いません。

掲載を希望される方は愛臨技 HP【会員サイト】(各種手続き)に申請書、手続き方法を掲載してありますのでご覧いただき、お申し込みください。



愛臨技 HP

第4回 HORIBA 東海地区 血液セミナーのご案内

開催日時 2025年2月22日(土) 14:30～17:00

開催方式 Zoomによるオンラインセミナー

参加費 無料 **定員** 先着500名

お申し込み 以下のURLまたは二次元コードからお申し込みください
<https://horiba.link/horiba-medical-seminar-20250222>

※当日の視聴用URLはご登録のメールアドレスにお送りします。
※一つのメールアドレスにつきご登録はお一人までとなります。
※当日ご参加いただけない場合も、事前のご登録で後日見逃し配信のURLをお送りいたします。

全国から
参加可能



司会
コメンテーター

岐阜市民病院	中央検査部	渡邊 宜典 先生
鈴鹿回生病院	臨床検査課	広瀬 逸子 先生
藤田医科大学病院	臨床検査部	佐藤 聖子 先生

講演1 RCPC～検査値・血液形態から病態を紐解く～

講師 山本 将毅 先生
岐阜県立多治見病院 臨床検査科主任

日常的に遭遇しやすい症例にフォーカスし、検査結果や末梢血液像の形態をどのように解釈するのか。基礎的な解説を交えてクイズ形式でお答え頂きながら一緒に考えていきたいと思えます。

講演2 血算異常の診断アプローチとピットフォール： 血小板減少を中心に

講師 高見 昭良 先生
愛知医科大学 内科学講座 血液内科教授

血算異常全般の診断アプローチを概説し、特に血小板減少に関連する留意点を症例とともに示します。臨床で見過ごされやすいポイントに触れ、血小板減少を含む血算異常の背景疾患を効率よく鑑別するための実用的な考え方を共有します。

※ご講演の間に会社説明・弊社製品の紹介を行います。ご了承ください。

【お問合せ先】 HORIBA血液セミナー事務局 (hor-med.hor@horiba.com)

HOR-MKT-PROMO-2024-0047 2024年11月作成